

## 足中祭のなかの体育大会

体育大会は、平成4年から文化祭と合わせ「足中祭」の一つのプログラムとして行っています。その昔、二つが独立しているときは、文化祭の合唱コンクールと体育祭の応援合戦というのが、学級のまとまりを見せる頂上決戦でしたが、現在は合唱コンクールの方に比重がかかっている傾向にあります。活動時間が2週間と限られるなかでの取組なので仕方ありません。

総合優勝はもちろんですが、保護者の参加する玉入れの盛り上がり、学級対抗の8の字跳びが体育大会の現在の華となっています。

足助中学校 校長 藤嶋力央



## 一読者登録者の皆様のお声

いつもあすけ通信を読んでいただいて、本当にありがとうございます。あすけ通信の発行も今回で11号となり、読者登録者の方は、なんと300名を越えております！これからも故郷足助と出身者とのつながりを感じられる情報誌を目指してまいりますので、今後ともよろしくお願致します。

今回はあすけ通信第10号の時にいたしました、読者登録者の皆様からのアンケートの中から、一部をご紹介します。

- ① あすけ通信、ありがとうございます。「足助へのUターン促進」という目的が私は気に入っています。成果はすぐに現れないかもしれませんが、外に出ている者に「パー」と、地元はがんばっている、という勇気、安心感をくれました。「支所だより」と一緒になっても、Uターンされた方の記事はぜひ残していただきたく存じます。また今後の足助の人口や、空き家情報など、「Uターン」に関する、あるいはUターンに関する情報をぜひお願いします。
- ② いとやさんのようにUターンされる方の思いには、熱いものを感じます。自分は現在、市外で学生生活を送っていますが、故郷の様子には関心が高いので、村松さんのような方を紹介いただくことは、とても勇気をいただくように思えます。

① あすけ通信、ありがとうございます。「足助へのUターン促進」という目的が私は気に入っています。成果はすぐに現れないかもしれませんが、外に出ている者に「パー」と、地元はがんばっている、という勇気、安心感をくれました。「支所だより」と一緒になっても、Uターンされた方の記事はぜひ残していただきたく存じます。また今後の足助の人口や、空き家情報など、「Uターン」に関する、あるいはUターンに関する情報をぜひお願いします。

② いとやさんのようにUターンされる方の思いには、熱いものを感じます。自分は現在、市外で学生生活を送っていますが、故郷の様子には関心が高いので、村松さんのような方を紹介いただくことは、とても勇気をいただくように思えます。

## 足助中学校同窓生の皆さんへ



皆さん、こんにちは。

今年の足中では、昨年度に引き続いて「古今亭菊千代」という女流落語家の方に来ていただき、全校生徒の目の前で一流のプロの楽しい落語を聞く機会が持てました。

当日は父兄や一般の方の参加もあり、今後機会があればぜひ同級生で足助中学校に足を運んで昔を語り合うとともに、中学校の今を知ってもらえると良いかと思えます。今後も足助中学校の同窓生としてご支援ご協力をお願いし、この通信により皆さんの故郷に近い存在であり続けることを願っています。

寄稿 同窓会長 中野幸彦

## 足助の冬のイベント

### ☆ 大晦日 香嵐溪ライトアップ

午前0時前後に香嵐溪をライトアップして足助八幡宮への参拝客の方をもてなします。

### ☆ 足助八幡宮厄除け

年明けより足助出身の厄除け祈願の男性が集い、初詣に来た方にお菓子をふるまいます。

### ☆ 足助屋敷の正月遊び

1月3日(土)～1月5日(月) かるた、羽根つき、凧作りなどの昔懐かしい正月遊びを体験できます。3日の米館者には、甘酒をふるまいます。

### ☆ 足助八幡宮七草粥

1月7日(水) 1年の無病息災を祈念して七草粥をふるまいます。

### ☆ 新成人を祝う会

1月11日(日) 足助交流館にて成人の門出のお祝いがあります。

### ☆ 中馬のおひなさん

2月7日(土)～3月8日(日) 重要伝統的建造物群保存地区に選定された足助の古いまちなみに、各家庭の思い出が詰まったおひなさんが飾られます。

### ☆ あすけ聞きフェス

3月22日(日) 午後1時30分から足助病院南棟講義室で開催予定。あすけ聞き書き隊の作品発表などを行います！ 詳細はブログでチェック！！ (「あすけ聞き書き隊」検索)

### あすけ通信

あすけ通信ではBlog、Twitter、Facebookもやっています!! ぜひ一度ご覧になってください!! 足助の魅力が満載ですよ☆「あすけ通信」で検索!!

発行 あすけ通信編集委員会事務局  
豊田市役所足助支所内  
(豊田市足助町宮ノ後26-2)  
電話 0565-62-0601  
E-mail asuketsushin@city.toyota.aichi.jp

# あすけ通信

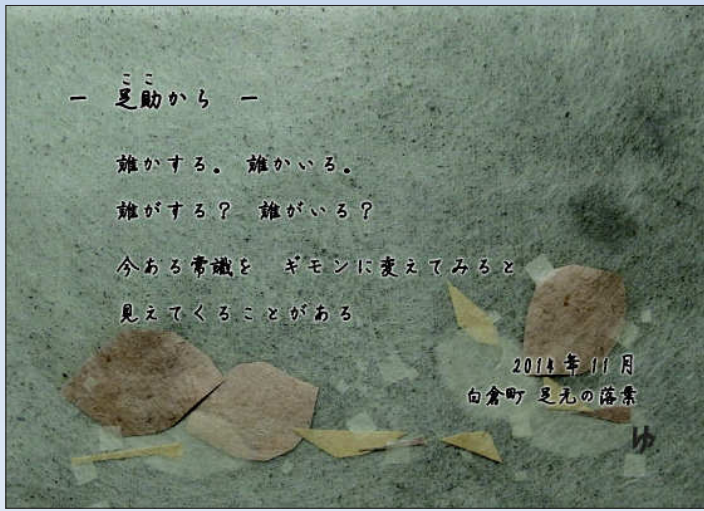
足助とつながる情報誌

## お品書き

- 足助から —
- ギモンに変えてみる
- 足助ゴエンナーレでフランソワ菓子を限定販売! —
- 画家フジイフランソワさんの世界感を足助の職人が和菓子で表現!
- あすこ紹介 —
- 今回は梅立自治区で活躍中の共存の森ネットワークさんを紹介!
- 石窯活用講座 in すげの里 —
- 新盛地区のすげの里にて石窯活用講座が開催されました!
- 足助中学校校長先生より —
- 足中祭のなかの体育大会
- 足助中学校同窓会長より —
- 足助中学校同窓生の皆さんへ
- 読者登録者の皆様のお声 —
- これまで行ったアンケートでの皆様のお声を掲載しました
- 足助の冬のイベント —
- 足助は冬もイベント盛り沢山!!

第十一号

2014



— 足助から —

誰かする。誰がいる。

誰がする？ 誰がいる？

今ある常識を ギモンに変えてみると

見えてくることがある

2014年11月  
白倉町 足元の落葉

## 足助ゴエンナーレでフランク和菓子を限定販売!



『足助桃太郎』  
両口屋 佐久間洋和氏 作



『足助菊次郎』  
加東家 加藤泰幸氏 作

10月に開催された『足助ゴエンナーレ』（元料亭「寿々家」を舞台にしたご縁でつながるアートプロジェクト）で、足助の若い衆が、画家フジイフランクさんの妖しい世界をオリジナル和菓子で表現することに挑戦しました。足助ゴエンナーレ開催期間中に限定販売され私も予約購入しましたが、菓子職人の技を駆使したリアルで怪しい芸術作品に仕上がっていました。味はもちろんのこと、中身の材料にも凝っていて、「これは何だろう?」と感じる不思議なものや、菊の花が練り込まれるなど、様々なアイデアが取り入れられていました。(た)

## あすっこ紹介

### 団体編

## 共存の森ネットワーク 東海チーム (椿立自治区)



あすけ通信をご覧のみなさん、はじめまして。私はNPO法人「共存の森ネットワーク」の池上真弘（静岡大学3年）といます。私は今椿立自治区にて里山整備活動をしています。今回は私たちの活動紹介をさせて頂きたいと思います。

私たちの団体は、“人と自然が共存する暮らしとは何か”をキーワードに学生主体で、北陸・関東・東海・関西・中四国・九州の6地区で農村漁村を拠点に里山整備活動や地域コミュニティの再生に向けた活動を行っています。私はそのなかの東海地区のリーダーを務めています。

東海地区の活動は5年前から始まりました。活動スタート時はまず、地元の方々に椿立自治区のことを「聞く」ことから始まり、椿立自治区の歴史や地理的状况などを聞いて回りました。これを「地元学」といいます。現在、私たちが椿立自治区で行っている主な活動は、「竹林の手入れ」作業です。「竹林の手入れ」活

動を始めるに至ったのは「地元学」で得た情報がきっかけとなっています。かつて椿立自治区では、裏山から燃料となる薪を取ったり、田畑が家の前にあったりと家の周りにある自然を利用して暮らしていました。竹林も家の近くにあり、竹を材として売るために管理し春には筍が収穫できました。私たちはこの竹林に着目して、竹林の手入れをしながら切った竹をどう活用していくかということを考えています。この活動では椿立自治区に住む、「名人」のような方や私たちと同世代の若い方々と一緒に行っています。

「竹林の手入れ」活動の他にも、椿立自治区内に多く見られる棚田での稲作を行ったり、「綾渡の夜念仏と盆踊」の練習に参加させて頂いたりと椿立自治区ならではの自然・文化の中で活動しています。参加メンバーは、愛知・岐阜の高校生や、静岡の大学に通う学生が多いです。愛知から参加する大学生がいないというのが今課題の1つとなっており、どう開拓するか模索中です。この記事を見て参加したい!と言ってくれる方がいらっしやると嬉しいです。

お問い合わせ先 [kyouzon\\_toukai@yahoo.co.jp](mailto:kyouzon_toukai@yahoo.co.jp)

共存の森ネットワーク オフィシャル Blog <http://kyouzon.blog114.fc2.com/>

随時参加申込を受付しております。メールにて、お名前・ご連絡先・電話番号を明記してお申込みください。

高校生・大学生・社会人の方の参加をお待ちしています!!



いつもありがとう!  
自治区長 原田鋭美より



## 石窯活用講座 in すげの里

10/25(日)、「これ以上人気になったら困る」と言われても、新盛里山耕実行委員会主催の第4回石窯活用講座を取材してきた。今回の参加者は旧豊田市内から20名。定年退職者からファミリーまで幅広い年齢層。市街地から参加の小学生の兄弟がそれは楽しそうに焚火で焼きマッシュマロを楽しんでいた。栗、鮎、しいたけ、ギンナン、カボチャ、サツマイモ、など地元産を中心に持ち寄られた食材を竹串に刺し焚火で焼いている人、薪をくべて石窯の温度を管理する人、テーブルではピザの生地を伸ばしトッピングをする人たち。一体感がこちよい。

アバウトさが石窯の良さ。手をつこんで1, 2, 3秒と数える間我慢できる温度が300度! (スタッフ談)。蓄熱された石窯にピザを入れる。3分で焼き上がり次々取り出される。おいしい顔が咲き、達成感もみんなで味わういい時間が流れていた。

シンボルである石窯作りをしたのが5年前。石窯活用講座としては3年目。活用講座は石窯作りをしたメンバーの同窓生がスタッフに。ここで繰り広げられる料理の講師は、最初から参加している一番料理が得意なメンバーが務めている。小牧市からの参加である。

今年新たに「小さな石窯作り講座」を追加した。こちらもなかなかの人気。すげの里の庭には完成したばかりの台車に乗ったトトロのネコバス型の小さな石窯が迎えてくれた。利用を事前に申し込み自分たちで使えるとのこと。

参加した方のリピーター率が高いことはこの講座の誇り。しかし、この講座が目指しているのは、地元の人との交流につながる石窯と参加者との出会いの場。すげの里の他の講座にも足を運んでもらうきっかけになること。

決して街の人が遊ぶところを提供しているわけではない。足助にルーツを持つ、でも今は足助から離れたところで暮らす人にこそ、ぜひ足を運んでほしいという。これからの人生に繋がっていくかもしれない素敵なひとときをぜひ過ごしたいからではないか? (豊田市里山くらし体験館 すげの里ホームページ <http://sugenosato.com/>)



(は)